

はじめに

大学入試へ向けて英語力UPを目指す皆さんは、「英単語をたくさん覚えたい」と願っていることでしょう。私たち予備校講師が最も頻繁に生徒から尋ねられるのは、「どうすれば単語を覚えられますか」という質問です。私たちは、英文読解・英作文・英文法・リスニングなどの授業を担当していますが、私たちが共通して感じているのも、「どうすれば、生徒が効率よく実用的な英単語の知識を増やすことができるだろうか」ということです。

私たちは、それぞれの授業の中で、単語の説明に多くの時間を使います。それぞれが授業の中で行っている単語の説明や用例を持ち寄って検討すれば、従来以上に実用的な英単語集ができるのではないかと。さらには、英単語学習に関して生徒が語る不安や不満を解決するための工夫をすることによって、さらに効果的な英単語集ができるだろう。私たちは、「学習者の立場」にこだわった英単語集を作ろうと考えました。そのような目的意識をもって本書の執筆は始まりました。

「記憶に残ること」「情報が豊富であること」「総合技能(reading / writing / listening / speaking)の習得に役立つこと」「見やすく使いやすいこと」の4点を基本コンセプトに設定し、数年間に及ぶ議論を経て本書が完成しました。1行1行に込めた私たちの想いが読者の皆さんに届き、本書が皆さんの単語力の充実に大きな役割を果たすことを、私たちは心から願っています。

著者一同

CONTENTS

はじめに	3
本書の特長	5
本書の構成	10
音声について	12

Level 1

UNIT 1 ~ 10	名詞	14
UNIT 11 ~ 22	動詞	60
UNIT 23 ~ 30	形容詞・副詞	130

Level 2

UNIT 31 ~ 37	名詞	172
UNIT 38 ~ 45	動詞	200
UNIT 46 ~ 50	形容詞・副詞・前置詞	242

Level 3

UNIT 51 ~ 58	名詞	266
UNIT 59 ~ 65	動詞	298
UNIT 66 ~ 70	形容詞	330

Level 4

UNIT 71 ~ 77	名詞	356
UNIT 78 ~ 85	動詞	380
UNIT 86 ~ 90	形容詞	414

Level 5

UNIT 91 ~ 97	名詞	438
UNIT 98 ~ 106	動詞	462
UNIT 107 ~ 110	形容詞	496

INDEX	512
-------	-----

覚えておきたい用途別単語

人や身体反応に関する単語	170
生物に関する単語	264
生活に関する単語	354
天体や自然に関する単語	434
物質や化学に関する単語	435
人体に関する単語	436

本書の特長

■ 学習計画を立てやすい UNIT 方式

皆さんが「単語を覚えよう」と決意する時、多くは「いつまでに」という期限を設定することでしょう。期限までをいくつかの期間に区切って「X語ずつ覚える」という方法を採用することが有効であることは間違いないのですが、それに加えて私たちは、その数が20語であるときに最も効果が上がると確信しています。本書は1 unit = 20 words で構成されています。皆さんの学習計画に従って1 unit ごとの期間を設定してください。本書が皆さんにとって心強いペースメーカーとなるでしょう。

■ 意味の連想を利用した配列

同レベルの同じ品詞の単語をユニットごとに分類する際に、単語と単語の間に意味の連想が起りやすいものを近くに配列しています。単語どうしの意味が関連づくことによって、それぞれ単語のもつイメージが分かりやすくなり、記憶に定着しやすくなります。

たとえば、UNIT 4 (Level 1 名詞)の前半では、見出し語として **cause, effect, influence, result** と「因果関係」を表す単語が並び、続いて **purpose, end, means, medium, method** と「目的と手段」に関する単語が配置されています。UNIT 4の後半では、**depth, height, length** と「計量」に関連した単語が並んでいます。

*ただし、意味体系を重視しすぎて学習者への圧迫感が大きくなり、効率を下げることはないように配慮をしています。

■ 入試傾向に即した単語のセレクト

近年の入試問題を分析すると、日常生活で使用される単語や、現代的なテーマに関する単語の理解がポイントとなる出題が増加していることに気づきます。本書では、最新の入試問題を基準に単語のセレクトを行なっています。

wag 「(体の一部)を振る、を揺り動かす」(p.400)

grin 「歯を見せてにやりとすること」(p.374)

brochure 「パンフレット、小冊子」(p.354)

appliance 「家庭用電気器具」(p.354)

これらの単語は、日常生活の中の基本単語でありながら、従来は見落とされがちであった単語の例です。

また、本書では、「情報社会」「環境問題」「人口問題」「グローバル化」「生物科学」などの現代的なテーマの中で頻繁に用いられる単語を多く採用しています。

habitat 「生息地」(p.456) (生態系を論じた英文での使用)

indigenous 「固有の、原産の、国産の」(p.432) (形容詞 native に代わって使用される頻度が増加)

hostage 「人質」(p.460) (テロリズム等に関する英文での使用)

mutation 「突然変異、変種」(p.446) (進化、環境問題を論じた英文での使用)

これらの単語は、入試問題で取り上げられるテーマの変化により重要度が増している単語の例です。

■ 名詞から覚える

本書は、基本単語から難しいが重要な単語へと、段階的に5つのレベル

で構成されており、各レベルの単語は【名詞】⇒【動詞】⇒【形容詞・副詞】の順序で配列しています。

その理由は、英文の意味を理解したり、情報を発信したりする場合に、名詞についての知識が最も重要だと考えるからです。まずは名詞を覚えることによって、自分の知識の進歩を実感しやすくなると思います。そうなれば、皆さんの英語学習を少しでも早い段階で軌道に乗せることができるでしょう。

■ こだわりの **S** : sentence と **P** : phrase

本書の執筆においては、用例(sentence / phrase)の確定に最も多くのエネルギーを注いでいます。

単語の用例を示す場合にまず生じるのは、例文(sentence)を示すのか、それとも、フレーズ(phrase)を示すのかという問題です。英英辞典や英和辞典の多くは、sentence と phrase を併用しています。このことは、sentence か phrase かを一元的に決定してしまうことが効率的だとはいえないということを示しています。一般的な傾向として、名詞は phrase を与えられるだけで用法のイメージがわかることが多いのですが、文構造を決定するような動詞や形容詞・副詞の場合は sentence が与えられなければ用法が理解されないままとなり、読解や作文において活用できない可能性が高くなります。

本書では、知識の定着と実用のために最も有効な用例を、4人の執筆者が文字通り1語ずつ検討しました。「入試の英文の中に見られる用例であること」「学習者の興味をひく用例であること」「覚えやすい用例であること」「英語表現(writing / speaking)に活用できる用例であること」「ネイティブ・スピーカーの観点から自然な用例であること」を選定の基準にしました。学習者本位・実用本位の観点から選ばれた用例は、皆さんの英語力向上のための強力な武器になることでしょう。

■ 派生語にも用例を

本書は、派生語も重視しています。見出し語と同様に、多くの派生語に用例を掲載しています。それによって、派生語に対する知識だけでなく、見出し語の用法のイメージがいっそう確かなものとなり、知識の定着と実用力を高めることになるのです。

■ 同意表現・反意表現にも用例を

単語や熟語の知識を整理するうえで、同意表現・反意表現と合わせて覚えておくことは非常に有効です。本書では、同意表現・反意表現にも、必要に応じて用例を掲載しています。同意表現・反意表現の用例と関連づけることによって、学習効果はさらに高まるのです。

■ 熟語に用例を

本書では、重要熟語をできるだけ多く取り上げています。そして、そのほとんどの熟語にも例文を掲載しています。熟語の知識の定着と実用力を確実なものにするためです。熟語に付された例文は必ず読んでください。単語の学習の中で熟語の知識も同時に充実させることが可能になり、語彙知識の習得はいっそう効率上がることでしょう。

■ Tips — 「読む」「書く」ための有用なアドバイス

本書では、Tipsのコーナーを設けています。「英単語の学習を行いながら英語の総合的技能の向上を目指す」という目的から、英文読解、英作文、英文法に関する有用なアドバイスをTipsに盛り込みました。“tip”とは「コツ、助言」を表し、gardening tips「ガーデニングのコツ」のように用いられる単語です。Tipsの情報は、「入試問題を解く」という観点からも重要なものばかりです。

たとえば、見出し語 **society** に設けた Tips (p.15) には、「society『社会』

と individual『個人』は対の概念」という説明があります。これは、英文の文章内容を理解するために必要となることの多い情報です。

また、見出し語 **solve** に設けた **Tip** (p.112)には、「目的語が the question の場合は answer the question とする。solve the question は不可」という説明があります。この情報は、英作文で多く見られる誤りを防ぐのに役立ちます。

■ 視覚効果にこだわったレイアウト

私たちは、見やすく使いやすい紙面構成を模索しました。学生ボランティアなどの意見を聞きながら、様々な紙面サンプルを作成しました。最終的にたどり着いたのは、double-page (見開き)構成のシンプルな紙面でした。

左ページ	左列	…	見出し語, 発音記号, 派生語
左ページ	中列	…	訳語, 同意語・反意語, 熟語
右ページ	左列	…	sentence, phrase
右ページ	右列	…	sentence の訳, phrase の訳

上記のように、左のページに暗記項目、右のページに用例の情報を集めています。こうすることにより、自分に必要な情報を即座に選び出して学習を進めることができます。

左ページの余白部分には書き込みをすることが可能です。書き込みをして「自分だけ」の情報が増えていけば、学習の進度も実感でき、「自分専用の」単語集として愛着も深まっていくことでしょう。